

PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン ニュースレター

設立25周年
記念号

2022.2
No.88

People's Hope Japan



Anniversary

数字で振り返るPHJの四半世紀

PHJお知らせ掲示板

カレンダー募金報告

2022カレンダー募金は2,480,000円の寄付が集まりました。(2021年10月~2022年1月)
ご協力ありがとうございました!



身近なモノで支援してみませんか?

ご自宅にある読み終えた本や、書き損じたハガキなどが、PHJへの寄付になります。これらの物品は提携企業にお送りいただくと、査定され、買取額が寄付としてPHJアジアの母と子の健康を支える活動に生かされます。家の中を整理しながら、国際協力してみませんか。
詳細はPHJのホームページの「寄付・入会」→「身近なモノで寄付する」へ。QRコードは右に記載しています。



スマホから
PHJの身近な
モノで寄付する

PHJ書き損じハガキ強化キャンペーン 2021-2022にご協力ください。

<期間：2021年12月1日から2022年3月31日>

2021年12月1日から2022年3月31日まで書き損じハガキ強化キャンペーンを実施し、本ニュースレターを郵送でお送りしている方には返信用封筒を同封しています。
年賀状作成などにもないお手元に不要なハガキ・切手などが見つかりましたら、ぜひお取り置きいただき、3月末までにPHJへ返信用封筒でお送りください。

●回収しているもの：未使用の年賀状、官製ハガキ、切手。そのほか、テレフォンカード、ギフト券、商品券、ビール券も受け付けています。

編集後記

過去のさまざまな取り組みを振り返ると、そこには私たちの活動を支えてくださった寄付者や連携した団体、協力企業がつねに寄り添ってくださっています。PHJが設立25周年を迎えられたのは皆様のおかげなのだ、本紙制作にあたり改めて感じる事ができました。

発行：特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：神谷洋平 編集人：南部道子 発行日：2022年2月28日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：https://www.ph-japan.org/

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

PHJは皆様のお力添えをいただいて 設立25周年の節目を迎えました。



設立25周年にあたり、設立の基盤作りに携わった皆さまそしてPHJの活動を今日まで支えてくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。25年にわたるPHJの取り組みが支援助地および支援者の皆様からその成果も含め多くの信頼を得られました事は、私共の喜びであり誇りでもあります。社会環境が様々な形で変化する中、PHJは次の25年を目指してどう歩みを進めて行くのか？PHJの理念・使命そして運営基本方針を再度見直し、活動の要素である事業・財務・人材につきそれぞれの角度から検討を加え中期計画に反映してゆく事が第一歩と考えております。活動に際し、「支援を必要とする人々」と「支援する人々」の橋渡しとしての役割を肝に銘じ持続可能な支援を続けてまいりたく、改めて皆様のご支援をお願い申し上げます。

PHJ理事長 小田晋吾

次の25年に向かって

PHJが残してきた25年の軌跡を振り返ってみると、これからも変えてはいけないこと、変えていかなくてはならないこと、その両方が見えて来る気がしています。

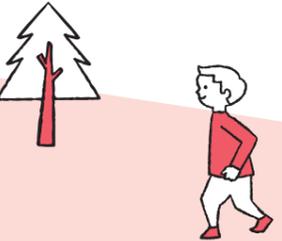
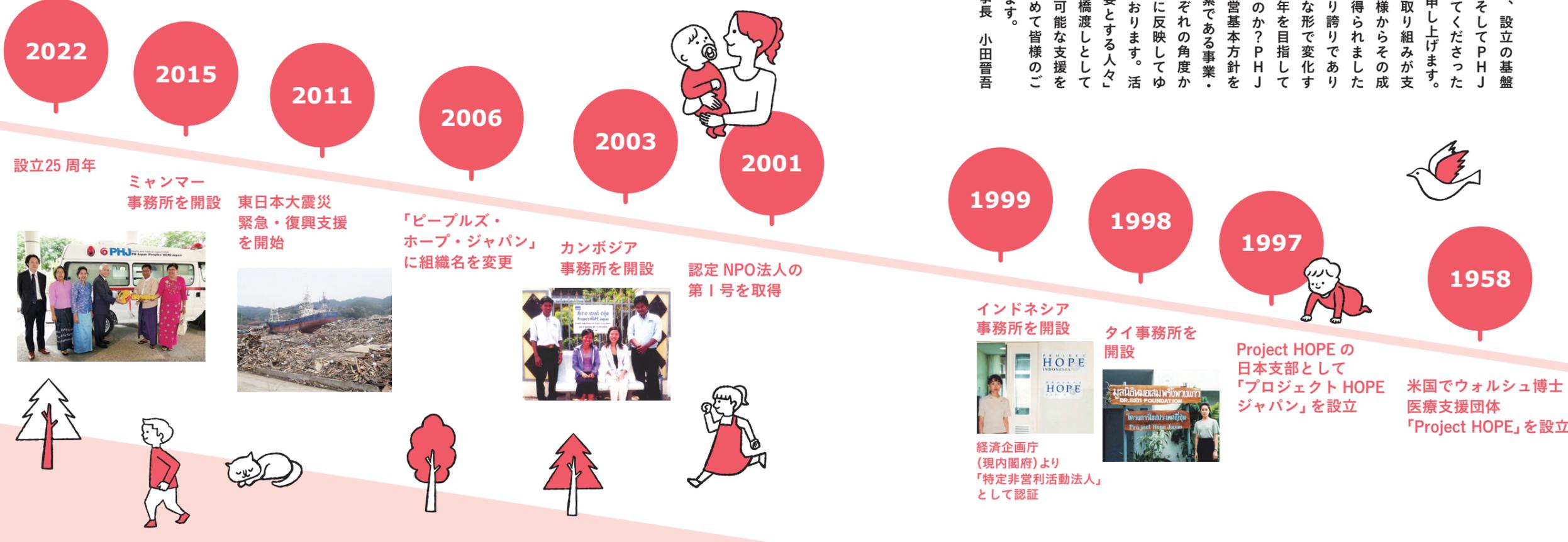
PHJの理念や事業コンセプトは、次の25年も変わることなく続いていきますが、

- 事業の質の向上と強化
 - さらなる専門性と知見の獲得
 - 事業地の拡大
 - 新たなファンドレイジングの開拓
 - 広報の多様性追求とプレゼンス向上
- などは、今後ますます進化し、深化させていくべき課題です。
- 記念すべきPHJ設立25周年にあたり、新たな気持ちで次の四半世紀を創っていきたくと思っています。皆様のさらなるお力添えをお願いする次第です。

PHJ理事・代表 神谷洋平



PHJの四半世紀のあゆみ



私がはじめて米国での国際協力NGO「Project HOPE」を知ったのはヒューレット・パッカーD(HP)のメディカルプロダクトグループとして香港に駐在した時(1988-1991)でした。HPやGEはProject HOPEの有力な支援企業だったため香港地域で寄贈品の手配などのお手伝いをしていました。日本に帰任したころProject HOPEのCEOから、日本支部発足のための協力要請がありました。発足にあたり横河電機株式会社、日本ヒューレット・パッカーD株式会社、日本GE各社にも協力をお願いして1997年にプロジェクトHOPEジャパン(のちにピープルズ・ホープ・ジャパン)が誕生し

ました。PHJのユニークなところは、経験豊富なアクティブシニアの方たちが本部スタッフとなり、若くて元気なスタッフの皆さんが開発途上国の現場の一線で地元のスタッフと一緒に教育を中心とした活動を展開し成果を挙げられたことだと思います。災害時の支援では、2001年の米国同時多発テロでは爆心地のそばのメンタルクリニックへ資金援助しました。東日本大震災では、発生直後に全日本病院協会への全面的な支援の決定と支援体制を構築しました。被災地のニーズに合わせた医療面での取り組みに、国内だけでなく海外の企業・団体からも共感いただき資金や物品をサポートいただきました。このように多くのご支援、ご協力をいただきながら、PHJスタッフの能力が向上し、素晴らしいNPOに育ってきたと感銘を受けています。これまでの皆さんのご尽力に心から感謝し今後のさらなるご発展とご健勝をお祈りいたします。

PHJ元理事長 甲谷勝人



母子保健
推進員

414人育成

ミャンマー

ネピドー特別行政区タコン郡
(2017-2020)

人材・設備が十分ではない中で、妊婦・産後の女性が必要とするケアを提供・利用するための互助の仕組みを構築。母子が安全な環境で適切なサービス（妊婦健診、分娩介助、産後検診、新生児健診、予防接種、家族計画サービス）を利用できるように支援。助産師と村の妊産婦の橋渡し役となる母子保健推進員を414人育成しました。



お産キットで
分娩介助を支援

278件

ミャンマー

ネピドー特別行政区レウェイ郡 (2021)

国内情勢が急変したミャンマーにおいて、公共保健サービスの利用が困難な状況下、安全安心な自宅出産のための清潔なお産キット570個、ガーゼ1,710枚、使い捨て手袋1,710組を供与しました。その結果、278件の出産に活用されました。



母子保健の専門家からのメッセージ

上智大学総合人間科学部看護学科 准教授
吉野 八重 様 (PHJ 理事)

パンデミックにより開発途上国の母子保健システムや緊急医療が甚大な打撃を受け、SDGs目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉の促進」が危機に瀕している。ミャンマーにおいては多くの医療職や若者たちが命がけで人道危機と闘っている。2015年訪問時に会った人々の顔が浮かび、心配が募る。誕生日には500床病院の患者さん全員に昼食を寄付している若手スタッフは、「PHJ活動を通して徳を積める幸せ」について輝く笑顔で語ってくれた。大試練の今、ミャンマーのPeople's hopeは何か。助産師、補助助産師、母子保健推進員たちは、PHJ事業で提供された母子保健医療の知識・技術を維持し、学び続け、共有する手段を望んでいるのではないだろうか。活動再開に備えて、ミャンマー語教材の開発、国内外のミャンマー関連団体、個人や組織と連携・協力し、情報交換することも可能かもしれない。世界は大きく見えて、小さくなっている。心を合わせて祈りつつ、想像力を働かせ、何ができるかを真剣に考え続けたい。



母と子の
健康のための支援



東南アジアには保健医療の環境や人材が十分に整っていない地域があります。都市と農村の保健格差が大きく、農村部では自宅出産が多く、出産時に出血が止まらないなど不測の事態に対応できず、お母さん、そして生まれてくる赤ちゃんも命を落とす可能性が高まります。PHJは地域の保健当局、医療者、コミュニティと連携して、母と子の健康と保健環境の改善を支援しています。

出産後

入院できる
産後ケア室を整備

48時間

カンボジア

コンボンチャム州ストゥントロン保健行政区
(2018-2022)

産後の女性の健康と子どもの健康な成長発達の促進を目的に、保健センター、コミュニティ、家庭が連携し、子どものケアに関する正しい知識の普及や実践の促進を進めています。2020年に産後ケア室の建築と利用推進活動を行い、出産直後の母子ケアを向上させました。



地域保健
センターを建設

11棟

インドネシア

バンテン州セラン県ティルタヤサ自治区 (2003-2016)

県保健局・病院、自治区の診療所、村の助産診療所と協力しながら、母子保健と乳幼児の栄養状態の改善を目指しました。助産施設となる地域保健センター11棟を建設。地域の保健医療サービスを向上させ、プライマリーヘルスケアの定着と健康教育支援のモデル作りを行いました。事業開始前は、施設分娩率が0%でしたが、終了時(2013)には64.5%に増加しました。

施設分娩率

77%

カンボジア

コンボントム州バライ・サントク
保健行政区 (2008-2011)

地域住民による保健センターの母子保健サービスの利用促進を目的とした事業。その結果、事業実施前(2008)は2%だった施設分娩率が、終了時(2011)には77%と顕著に増加しました。また、妊婦健診など母子保健サービスの利用度も高まりました。



数字で
振り返る
PHJ

Achievements

洪水で被災した

5,704世帯

カンボジア コンポントム州 に衛生キットを配布

タイ バンコク、アユタヤ県 (2011-2012)

2011年8月よりインドシナ半島で例年の1.5倍の雨が降り、洪水が発生しました。深刻な被害を被ったカンボジアの事業地コンポントム州で、緊急支援として被災した5,704世帯に衛生キットを配布しました。タイのバンコクでは飲料水、蚊帳、ブランケット、小児用オムツやミルクなどのキット100セット、アユタヤでは簡易トイレ211個やTシャツ115枚を配布しました。

スマトラ沖地震・大津波支援のために

700万円

インドネシア アチェ州 の寄付が集まり、医療支援活動を実施

スマトラ沖地震・大津波による被害が大きかったインドネシアのアチェ州で復興支援として助産施設を建設しました。タイのプーケット県、クラビ県では医療物資の緊急支援や診療所で流出した超音波診断装置などを支援しました。



医療機器技術指導

途上国の医療機関では高度な医療機器を寄贈されたものの適切な使用法がわからない、故障しても修理方法がわからないために放置されているといった課題がありました。PHJは専門家を派遣して医療機器の技術指導を行いました。

90% 以上の医療機器を稼働

インドネシア バリ州 (1997-1999)

故障機器の調査を行い、修理交換部品の支援と医療スタッフや保守技術員の技術向上教育を行い、3年間でサングラ病院を含む4つの公立病院において90%以上の医療機器を稼働させることができました。その後も東地区ギアニア県での超音波画像の診断技術、X線CTの運用と画像の診断技術向上の支援を継続しました。



産婦人科医

6人

に超音波画像診断技術指導

カンボジア プノンベン (2007-2010)

プノンベンの市立病院の産婦人科医6人を対象に、日本産科婦人科学会の専門医による超音波画像診断の技術指導を実施しました。



海外災害支援



PHJの事業地や周辺の地域で起きた災害に対して支援を行っています。物資の緊急支援や復興支援など被災状況やニーズに応じて支援を行っています。

新型コロナウイルス感染予防のマスク配布

59,007枚

カンボジア・ミャンマー (2020-2021)

新型コロナウイルス感染予防のために医療人材、保健ボランティアなどにマスクやアルコール消毒液などの感染予防物資の寄贈をしました。



子ども・若者・女性の健康のための支援

経済的な理由から適切な医療を受けられない子どもたちを支援しました。また感染症予防や口腔衛生、がんの早期発見のための取り組みも実施しました。

HIV/AIDS 予防教育を実施



タイ チェンマイ県(1998-2016) ベトナム (2009-2010)

18年間

タイにてHIV/AIDS予防を目的としたピア教育を約55,000人の大学生・高等専門学生に実施しました。この経験を活かし、ベトナムの国立医科薬科大学においてピア教育を320人の学生に実施。

13,000人

インドネシア バリ州 (1998-2010)

東地区で小学生・幼稚園児を対象にした口腔衛生教育・虫歯予防教育活動を実施し、5年間で延べ約13,000人に実施しました。同時に保護者を対象にした教育も実施し、約3,000人が参加しました。

口腔衛生教育を実施

女性特有のがん検診推進を

3県

16郡で実施

タイ チャヤプーム県、スパンブリ県、チェンマイ県 (2001-2013)

子宮頸がん検診の受診(細胞診)や乳がん自己触診を高めるため、看護師の技術教育をはじめ、住民に検診をすすめる村の保健ボランティア2,696人の育成などの活動を実施。2010年から3年間の事業実施期間中に、子宮頸がん検診受診率は63%、乳がん自己触診実施率は89%と大幅に上がりました。これらの経験を活かし、2011年から5年間、ベトナムでもがん自己触診17,222人の促進活動を実施。現地の2つの団体(ベトナム赤十字参加のNGO「CASCD」と女性の全国組織であるベトナム・ウィメンズユニオン)に引き継がれています。



数字で振り返る PHJ Achievements



668人

の子どもの医療支援を実施

タイ チェンマイ県、チェンライ県 (1998-2016)

貧困家庭やタイ国籍を持たない家庭で、障害や慢性疾患を抱えた子どもを対象に、医療費支援や医療スタッフと家庭訪問を行いました。合計228人の子どもを支援しました。

タイ チェンマイ県、チェンライ県 (1998-2016)

小児先天性心臓病手術の技術向上を目指して医師3人と看護師11人に対する専門医療教育を支援しました。早期発見のために農村部の地方病院での心臓病移動検診も実施。また貧困家庭への手術費支援も行い、合計440人の子どもの手術を行いました。

107人

がスタディツアーで
現地訪問



国内人財育成

グローバルな課題やNGOの取り組みについて、理解を深める機会を提供してきました。

スタディツアー

カンボジア等の農村地を訪問して学びを深めるツアーの開催企画やアテンドをしています。

- ・ 埼玉大学スタディツアー (2010年から9回実施)
- ・ PHJ主催の一般公募スタディツアー (2009年から5回実施)



埼玉大学スタディツアー担当の教授のメッセージ

いつもカンボジアスタディツアーではお世話になっております。ここ数年の日本国内での相次ぐ大きな災害に加え、2年前からはコロナウイルスの感染拡大で、日本の国際援助NGO・NPOは大変な状況にあると聞いております。そんな中でPHJの地道な活動は、大変貴重なことであるとともに、スタッフの方のご苦労も並大抵ではないものと思います。しかし他方で、昨年は、PHJ理事の編著により国際援助についてのガイドブックも出版されましたが、これは、PHJの活動の質の高さを示すものでしょう。PHJの活動が一層発展するとともに、その経験が国際協力に関わる人の共有財産となることで、この分野の活動が一層発展していくことを期待しております。

埼玉大学大学院人文社会科学部研究科教授 (文化人類学・農村開発論)
三浦 敦 様

出張講座やPHJ事務所訪問

教育機関や企業などへ出張講座や、PHJ事務所訪問の受け入れを行っています。国際保健といった専門的な内容から、国際協力全般、SDGsなど、対象者や目的に応じて様々な講義やセミナーを実施しています。

担当教授のメッセージ

PHJ設立25周年、大変におめでとうございます。創価大学法学部の授業での外部講師やインタビューでの国際支援のリアルなお話や、法学部学生のインターンの受け入れなど、学生たちの大きな財産となり、希望となったと確信しております。PHJの現地の人々に寄り添った教育による自立支援は、創価大学の建学の精神と創始者池田大作先生の平和思想と通底しています。今後とも貴団体のますますのご発展を心より応援いたします。

創価大学法学部教授 前田 幸男 様

160ページの国際協力のノウハウをまとめた書籍の制作協力(2021)

「海外で活動をしたい人のための活動ハンドブック」(遠見書房,2021) 編著者からのメッセージ

PHJの四半世紀つづく活動は、歴代のOB・OGの方々、PHJを支える人々から受け継がれた沢山の「想い」で繋がっています。今回、その「想い」の一片を編著者として紡ぐ機会を頂けたことに心より感謝いたします。世界共通の目標としてSDGsが浸透してきましたが、それを実現させるためには、持続可能な人財育成も鍵となります。本書は、開発途上国支援を志す、現在や未来の人材に向けての「転ばぬ先の杖になりたい」との「想い」が構想の礎にあります。そして賛同していただいたPHJに関係する一人ひとりの執筆のおかげさまで、「想い」はもちろんのこと、豊富な「知識」と「経験」が織りなす実用書(ハンドブック)として誕生することができました。本書を通して、多くの人々がPHJを知る機会となることや、同じ志を抱いた人財への一助となることを願っています。この度は、25歳のお誕生日を迎えられたこと、誠にありがとうございます。

順天堂大学医療看護学部・大学院医療看護研究科 公衆衛生看護学 准教授 岡本 美代子 様 (PHJ理事)



国内災害支援



海外だけでなく日本国内で起きた災害の支援も行っています。
募金活動や医療物資・医療機器などの物品寄贈などを行っています。

震災後

数字で
振り返る
PHJ

Achievements

10年

支援を継続

東日本大震災

東日本大震災発生時よりPHJは公益社団法人全日本病院協会(全日病)を通して支援活動を行いました。全日病は国内に2,300を超える会員病院を抱え、被災地域には218もの会員病院が点在しています。被災地の医療面でのニーズを伺いながら、個人や企業からの寄付金、商品や機器の寄贈などを行いました。

・AMAT支援(2011)

被災地である宮城県・福島県への全日本病院医療支援班「AMAT (All Japan Hospital Medical Assistance Team)」の派遣(2011年3月14日～6月10日)を支援しました。



・病院機能支援(2011-2018)

気仙沼市医師会所属の約40の医療機関に、大津波で壊滅的被害を受けた医療機器、車両、事務器具類の購入費用として総額約1億円を支援しました。

・ドクターカー寄贈(2013-2014)

石巻市立病院が全壊したことから(現在は新築)、篤志家からの寄付を三井住友信託銀行を通して石巻市立病院開設仮診療所にドクターカー一式(約3,500万円)を寄贈しました。ドクターカーには医師と看護師が乗り、仮設住宅や病院に行けないお年寄りを訪問診療しました。



・病院復興支援(2013)

篤志家からの寄付を三井住友信託銀行を通して多賀城腎・泌尿器クリニックの病院復興を支援しました。多賀城市に透析クリニックは一つしかなく、人工透析機器一式約1,000万円を寄贈して病院の機能回復を支援しました。

・心療カウンセリング支援(2019-2021)

地震による大津波と原発事故で被害を被った南相馬地域の人々を対象に、医療法人結びの会・ほりメンタルクリニックを通してメンタルケアの無料心療を支援しました。合計で心理検査220件、カウンセリング922コマ(時間)を行うことができました。

59病院の復興支援

熊本地震医療支援(2016)

2016年4月14日、16日発生の地震による被災病院を復興するための支援を全日病と連携して実施。集められたご寄付は全日病を通して震災直後はAMATの派遣、必要な食品、水、おむつなどの物資の輸送に、その後は被災した病院(熊本県57病院、大分県2病院)の復興支援に活用されました。

AMAT13班 52人を支援

西日本豪雨災害支援(2018)

西日本を中心に記録的な豪雨をもたらした「平成30年7月豪雨」の被災地に対し全日病はAMATを派遣。PHJは募金活動を行い、AMATの活動費として寄付しました。



PHJ参加は、タイ医療支援「HOPEパートナー」発足(1998年)の頃です。現在、タイ支援は必要なくなりました。暖かな眼差しと、多くの皆様のお力、そして丁寧な時間が、PHJの理念実現に繋がるのだと思います。

山本 千晶 様
(PHJ理事・賛助会員)



PHJが支援してきたアジアの国々は25年の間に大きな変容を遂げています。PHJはそうした変化に柔軟に対応し、対象国や支援内容を適切に調整してきました。このような戦略的な視点をわれわれの強みとして今後も大切にしていきたいでしょう。

埼玉県立大学理事長
慶應義塾大学名誉教授

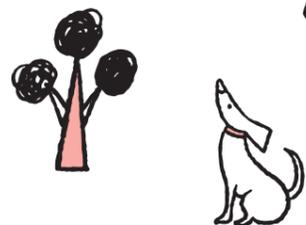
田中 滋 様
(PHJ副理事長・賛助会員)



このたびは、貴会が設立25周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。毎年、楽しくチャリティカレンダーへ協力させていただいております。ありがとうございます。貴会の更なるご活躍を祈念しております。

社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
千川さくらっこクラブ

照沼 潤二 様
(PHJカレンダー制作協力)



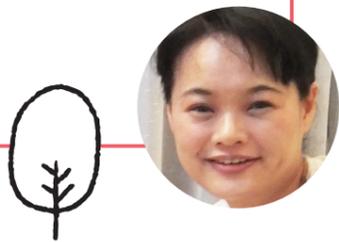
PHJ 設立 25 周年を心からお慶び申し上げます。外務省はこれまで ODA を通じて、PHJ とアジア地域の母子健康改善分野等で連携してきており、感謝申し上げます。皆様の益々の御発展をお祈り申し上げます。

外務省 国際協力局 民間援助連携室長
松田 俊夫 様



設立25周年、おめでとうございます。この間のアジア社会の変化は大きなものでありましたが、今もお困難な状況下にある母子は多く存在します。出来ることを確実に積み上げ、益々のPHJの発展をお祈りします。

亜細亜大学 経済学部 准教授
水野 明日香 様
(PHJ 運営委員)



設立25周年、お祝い申し上げます。当クラブは2009年から毎年、PHJのカンボジアでの助産師育成事業や母子保健事業の支援を行っています。新型コロナで困難があると思いますが、PHJの皆様のご活躍を祈念いたします。

成田コスモポリタンロータリークラブ
2021-2022 年度会長
藤崎 康人 様



設立25周年おめでとうございます。私達が2004年から始めたカンボジアの小学校訪問ではPHJコンポントム事務所にお世話になり、また子ども達の絵のカレンダー採用など感謝しています。PHJの飛躍をお祈りします。

横河オークン会代表
小木曾 裕 様
(PHJ賛助会員)



設立 25 周年おめでとうございます。PHJ のオーバーヘッドが小さいため、ご支援金のほとんどが援助対象へ届くということが、一つの強みです。この実現は、PHJ スタッフ皆さんの努力のたまものです。有難うございます。

横河電機株式会社
元取締役・取締役会議長
海堀 周造 様
(PHJ 理事・賛助会員)



PHJ 様の設立 25 周年を心よりお祝い申し上げます。東南アジアの母子の健康を守る活動など国際保健医療に貢献してこられた関係各位の熱意と努力に敬意を表すとともに、益々のご発展を祈念いたします。

横河電機株式会社
取締役会長
西島 剛志 様
(PHJ 賛助会員)



設立 25 周年、おめでとうございます。東南アジアのお母さんと子供たちの健康のために、着実に歩みを進めてきた PHJ。これからも地域の人たちに寄り添いながら、よりよい活動を続けられるよう、私も応援していきます！

日本ヒューレット・パッカート合同会社
経営企画統括本部
コーポレートコミュニケーション部
岸良 百子 様
(PHJ 正会員・運営委員・賛助会員)



設立25周年おめでとうございます。社内活動で寄付を始めた後、勤め先の会社が合併したところ、社内に馴染みあるPHJのロゴが！売上の一部が寄付される自販機が設置されており、益々、PHJを身近に感じています。

潮 良子 様 (PHJマンスリー会員)



PHJ 設立25周年に寄せて PHJにご支援・ご協力 いただいている方々の メッセージ

甲谷初代 PHJ 理事長が“若手の行動力とシニアの英知をもとに新 PHJ の更なる飛躍をはかる”との理念を掲げてから 25 年たった今、関係各位の弛まぬ努力と思いやりの心で、見事に開花し設立 25 周年を迎えられたことに心よりお祝いを申し上げます。

伊藤 武 様
(PHJ 賛助会員・マンスリー会員)



設立 25 周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。国際活動事業の協力連携や東日本大震災時寄附金支援など当会にとって大事なパートナーである貴会の活動理念実現のため、今後益々のご発展を祈念いたします。

公益社団法人 全日本病院協会 会長
猪口 雄二 様
(PHJ 理事・賛助会員)



教育を通じて途上国への医療支援を続けて PHJ 設立 25 周年、おめでとうございます。特筆すべきは 9.11 アメリカ同時多発テロや 3.11 東日本大震災の原発事故での精神的医療支援を実施したことです。今後の活躍を祈る！

須見 彰 様
(元 PHJ 代表・賛助会員)

